

1月7日(木曜日)

ドル/円

## 米長期金利の方向性に注意

### 6日(水)の主な推移

NYダウ平均

10573.68ドル  
(+1.66ドル)

米長期金利  
(10年債利回り)

3.8254%  
(+0.0607%)

NY原油先物

83.18ドル  
(+1.41ドル)

チャート: 30分足 6日(水)朝7時 ~ 7日(木)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所:外為どっとコム

①

日中は米長期金利が時間外取引の中で上昇したことを受け、ドル/円ではドル高・円安が進行。さらに、欧州中央銀行(ECB)のシュタルク専務理事が「欧州連合(EU)はギリシャを救済しないだろう」と発言したことを受け、ユーロに対してドルが買われたことも、ドル/円でのドルの上昇要因となった。

②

22時15分に米国で発表された12月ADP全国雇用者数は8万4000人の減少と、前月(16万9000人の減少)よりは大幅に改善したものの、市場予想(7万5000人の減少)を下回ったことから発表直後はドル売りとなり、ドル/円は一時92.05円まで値を下げた。ただ、下値は限定的で、その後に発表された米12月ISM非製造業景況指数が50.1と市場予想(50.5)を下回ったものの、景況感の境目となる50を上回ったことで米長期金利が上昇すると、ドル/円は92.73円まで上昇した。

③

12月15~16日分の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録が発表され、この中で一部から「MBS購入停止は住宅市場の改善を弱める」「資産購入プログラムの拡大と延長」などの声があったことから、米国の金融引き締めへの期待が後退し、一時ドルが売られた。

### 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本政府による市場介入への警戒感
- ・日本の財政赤字への懸念

### 下落要因(ドル安・円高)

- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

### 本日の見通し

本日の予想レンジ: 91.20-93.00円

本日の手掛かり材料は、米国については新規失業保険申請件数のみ。これも、8日に発表される米12月雇用統計への前哨戦として注目されよう。ただ、6日に発表されたADP雇用統計が市場予想を下回ったにも関わらずドル/円相場への影響が限定的だった事を考えると、本日の新規失業保険申請件数の影響もあるいは限定的なものに留まると考えられる。

ただ、米長期金利の動向には注意したい。米長期金利は4日に一時3.9%台乗せとなったところから、5日には3.7%台半ばまで低下する場面もみられたが、6日は再び上昇した。目先、発表されたFOMC議事録から、「米国の金融引き締めはまだまだ先」という見方が広がりがつつあることで、昨年11月末から上昇傾向にあった米長期金利が再び下がる可能性もある。足元のドル/円は米長期金利に連れた動きとなる局面が多くみられるだけに、方向性はきちんと注視しておきたいところである。

### 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/7(木)	22:30	○	(米) 1/3までの週の新規失業保険申請件数	43万2000件	44万件

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com